

海外事務所だより

シドニー事務所

ニュージーランドにおける 地震対策について

シドニー事務所 川上 深志(群馬県太田市派遣)

はじめに

近年、世界各地で大規模な自然災害が発生しています。2010年は、世界各地で発生した自然災害による被害が、過去20年で最悪であったことが国連（United Nations）の協力機関である「災害疫学研究センター（Centre for Research on the Epidemiology of Disasters）の調査で明らかになりました。

ニュージーランドは、地震や噴火をはじめとする数多くの自然災害に見舞われてきました。ニュージーランド南島のクライストチャーチでは、2010年9月にマグニチュード7.1を記録し、2011年2月にはマグニチュード6.3の地震が続けて発生し、現在も余震が続いています。

ここでは、2月に発生した地震発生後の各関係機関の対応状況と復興対策について紹介します。

カンタベリー地震

日本でも報道がありましたとおり、2011年2月21日12時51分にニュージーランド南島のクライストチャーチ市周辺で、マグニチュード6.3の地震が発生し、5月3日時点では、邦人28人を含む181人の犠牲者を出しました。被害推定額は、150億NZドル（約9,750億円）であり、復興費用として300億NZドル（約1兆9,500億円）を見込んでいます。これは、同国のGDP約1,900億NZドル（12兆3,500億円）の15%以上にあたります。

クライストチャーチ市は、人口約40万人の南島

の中心都市であり、国際的にも庭園都市として有名であり、19世紀にイギリスからの開拓民が切り開いていった街路や建物の雰囲気は今でも色濃く残る町並みです。今回の地震によって、クライストチャーチ大聖堂のような歴史的建造物の他、多くのビルが全壊、半壊し、市内の多くの地域で停電や断水が発生し、大規模な液状化現象も生じました。

地震発生後、余震が続くなか、日本からの国際緊急援助隊をはじめとする各国の救援・救助隊による全力の捜索・救助活動が進められ、地震発生以来70名の方を救助することができました。しかし、残念ながら3月3日頃から生存者の捜索・救助から遺体の捜索・収容へと移行していきましました。市内には避難所、移動式トイレが設置され、地震直後から建物の安全検査が行われ、倒壊の可能性のある「赤」、限られた状況で建物に入ることを可能とする「黄」、使用制限のない「緑」の3区分で表示された張り紙が建物に張られています。4月12日時点でおおよそ1.4㎡の市中



建物の危険度を表す張り紙

心部、倒壊、崩壊危険箇所には立入り禁止区域になっており、中心部の様子が分からない状態が続いているため、地震復興を統括しているCERA (Canterbury Earthquake Recovery Authority : 後述) が、バーチャル画像を公開しています。(http://eqstreetcam.co.nz/1001100170)

クライストチャーチから160kmほど南に位置する人口約2万7千人のティマル市では、被災者のために避難所が設置され、クライストチャーチからの移住希望者への情報提供や食料炊き出しなどが行われました。

ニュージーランドのジョン・キー首相は、震災直後に「2月22日は、ニュージーランドの歴史上最悪な大災害として、人々の記憶に残るだろう」とコメント。ニュージーランド政府は、国家非常事態宣言を発令し、震災直後に救援支援サイトを設立し、一日も早い復興に向けて内外からの募金を呼びかけ、カンタベリー広域自治体とクライストチャーチ市が運営するホームページには10言語による地震情報も発信しています。

隣国オーストラリアからは、緊急援助として、政府より500万豪ドル(約4億2千万円)の復興支援金の拠出をし、地震後直ちに救援・救助隊や医師、看護師、整形外科医等から成る医療チームが派遣されました。昨年末に甚大な洪水被害があったクイーンズランド州からも救援・救助隊が派遣されています。また国、自治体間の支援だけでなく、オーストラリア国民が主催するチャリティーイベント等が開催されるなど、両国の国民同士の強い助け合い精神があることも実感されました。



市中心部は現在も立入り禁止区域

復興に向けて

政府が明らかにした2011年度予算によると、カンタベリー地震復興のための政府基金に今後数年で55億NZドル(約3,575億円)規模の予算を手当することが明らかになりました。これは主に社会基盤整備や緊急対応のための費用に充てられます。

当初の震災対策は、市民防衛危機管理省 (Ministry of Civil Defence & Emergency management) が統括しましたが、今後の復興統括機関としては、CERA (Canterbury Earthquake Recovery Authority) が発足し、カンタベリー震災復興担当大臣のゲリー・ブラウンリー氏の下に組織されています。

CERAの役割としては、

- ・継続的な復興に向けて関係機関との調整
- ・景気回復、地域コミュニティの復活、復興場所の適正化
- ・効果的かつタイムリーな復興
- ・クライストチャーチ市など周辺自治体並びに関係機関と緊密な連携
- ・住民に復興状況等の情報提供

CERAが復興戦略、政策、立案等の統括をし、クライストチャーチ市は、市業務および市内中心部の復興計画の調整を行います。また経済復興、福祉、インフラ整備等の各分野の施策の実施に当たっては、政府各省並びに関係機関が、それぞれの役割を担うことになります。

また、地震により倒壊した建物の原因調査について王立委員会 (Royal Commission) が設置され、運営されています。当委員会は、総督によって組織される同国最高の調査組織であり、政府からは独立して政府の統治や大災害や大事故など、国家や国民にとって重要な事象について調査します。すでに、クライストチャーチ市建設当局および住宅建設省によって調査が着手されていますが、当委員会では、ヒアリング実施、専門家の証言聴取等を含む独自のプロセスを踏み、10月に中間報告をし、2012年4月をめどに最終的な報告書が公表される見通しです。キー首相は、今回の地震で、なぜ多くの命が失われたのか責任の所在を究明

復興計画スケジュール

計画案作成								計画策定	
住民から意見募集			協議		ヒアリング	再検討			
2011年05月	2011年06月	2011年07月	2011年08月	2011年09月	2011年10月	2011年11月	2011年12月		

(出典：クライストチャーチ市HPより作成)

し、さらに復興の際の耐震政策に役立てたいとの意欲を示しています。

建物の壊滅的な被害を受けたクライストチャーチ市では、都市再建に向けて住民の意見を広く集め、10年から20年の市中心部復興計画を作成することになりました。今回の地震後に策定されたカンタベリー地震復興法（Canterbury Earthquake Recovery Act 2011）で、市は復興計画案の作成を求められています。

復興計画の定義は、

- ・ 経済的に持続可能な中心部の発展
- ・ 既存の区画や景観への配慮
- ・ より安全で持続可能な庭園都市への促進と、長期的な展望に立った街づくり
- ・ 歩行者や公共交通機関利用者など誰もが移動しやすい街の形成
- ・ 活気あふれ誰もが過ごしやすい街

であり、住民からの意見を広く集めるためのイベントを開催したり、各家庭へのチラシ配布やウェブサイト、フェイスブックやツイッターなどの媒体を使い、「生活の拠点」、「建物の基準や街の空間の在り方」、「商業エリアとしての在り方」、「移動方法」の4項目に分けて意見を募集しています。当市は、市成人の44%が市中心部に生活拠点を置き、仕事をし、多くの観光客が訪れ、年間23億NZドル（約1,495億円）もの利益があります。今回の地震は、クライストチャーチ市があるカンタベリー地域の



復興工事が進む市中心部

みだけでなく、ニュージーランド全体に精神的・経済的にも深い傷を残すこととなりましたが、ウェブサイト上での投稿された意見を見ますと、住民と行政が力を合わせて、より魅力あるまちを作ろうという気持ちが伝わってきました。復興計画は今年の12月をめどに計画策定される予定です。

また、自然災害後に被災者の経済的復旧をする目的で1945年に設置された地震委員会（Earthquake Commission）では、地震保険の保険金支払い業務に追われています。当委員会は、財務大臣の監督、指導を受け、地震保険および自然災害基金の管理・運営を行っている政府出資の法人です。

ニュージーランドでは、民間保険会社が提供する地震保険は、当委員会の保険の補償を補完する役割を担っています。

おわりに

今回の地震による建物の倒壊により、日本人留学生らが巻き込まれ、多数の死傷者が出ました。亡くなられた皆様に対し、改めて哀悼の意を表しますとともに、ご遺族と被災された方々に心からお見舞い申し上げます。

震災からちょうど3カ月を迎える5月22日には、日本でいう24時間テレビのようなクライストチャーチを支援するイベントが行われ、募金活動はサイト上でも行っています。

今回の地震によるニュージーランド南島全体への精神的、経済的な影響だけでなく、昨年11月の北島最大都市であるオークランド市大合併に伴う南北格差、オークランド市一極集中への南島の懸念があり、自治体職員として派遣された私としても、クライストチャーチ市が今後どのように市民と行政がスクラムを組み、地域復興、経済復興に取り組んでいくかを調査し、日本の自治体に有益な情報を発信していこうと思います。



海外生活 だより

シドニー事務所

「Mother's Day」

シドニー事務所所長補佐 田頭 真二(総務省派遣)

はじめに

5月の第2日曜日、子どもが学校で「母の日」に渡すために作ってきたカードを妻に贈っていました。妻の喜ぶ姿を見て、常日頃お世話になっている母親（妻）に感謝をこめて、今回は、オーストラリアの「Mother's Day（母の日）」の状況について伝えたいと思います。

オーストラリアの母親の実情

まずは、オーストラリア統計局のデータから見るオーストラリアの母親の実情ですが、女性が子どもを産む平均年齢は、2006年のデータで、30.8歳であり、10年前の1996年の29.2歳に比べると、約1.5歳遅くなっているようです。そして、15歳以下の子を持ち、就業についている母親の60%がパートタイムであり、12歳以下の子を預ける施設を利用する母親も増加傾向（1996年は14%だったが、2005年は23%）にあるようです。

オーストラリアの母の日のきっかけ

オーストラリアの母の日は、アメリカおよびイギリスの影響を受けています。母の日は、アメリカや日本と同じように5月の第2日曜日です。オーストラリアの母の日に贈り物をする伝統は、1924年、シドニー市近郊のライカート市に住むジャネット・ヘイデン女史によって始められたのが最初であるといわれています。ヘイデン女史は、貧しく孤独な母親たちに会い、彼女たちを励ますため、地元の学校の子どもたちと一緒に寄付をし、彼女たちに贈り物を贈ったことがきっかけとなり、年々、多くの支援者、地元企業および地元

の市長の支援なども得て、全土に広がっていったといわれております。

オーストラリアでも日本と同じように、母の日には花を贈ります。日本では、アメリカに倣ってカーネーションを送るのが一般的のようですが、オーストラリアでは、伝統的に白い「菊」を贈ることが一般的だそうです。「菊」の花を贈るのは、オーストラリアの秋にあたる5月の季節の花であり、安価で、かつ、豊富に咲いており、とてもきれいな花であるからだそうです。その他の諸説として、「菊」の花のことを英語で、「Chrysanthemum」または「Mum」ということから、英語で「お母さん」を意味する「Mum」をかけて、母の日の花となったということ説もあります。菊の花には、「高貴」などという花言葉がありますが、私の場合、日本の葬式の時の花というイメージが強く、なんとなく人に贈るのは憚れてしまいますが、こちらでは、子どもたちからの菊の花のプレゼントを母親は喜んで貰っていますし、大手スーパーや市内の小売店などでも、臨時の花売り場に、母の日の花として沢山売られています。もちろん、カーネーションを贈る方もいます。カーネーションを贈る際は、日本と同じように、色つきのカーネーションは健在の母親に、白いカーネーションは亡くなった母親にと使われているようです。菊の花の場合は、健在の母親に贈る際は、白色でもそれ以外の色でもよいようですが、伝統的には白色だそうです。

菊やカーネーションといった花以外には、チョコレートや、母親の好きな食べ物を贈ったり、この日の朝食を子どもたちが母親のために作ってあげたりしているようです。家族で外食に



市内で販売されている花の様

出かけたりする家庭もあるようで、この日は、予約が取りづらい状況になっています。

また、市内のショッピングセンターでは、この日に合わせて、セールが開催されたりします。日本とは季節が逆になりますので、6月からの冬に向けて、コート類などの衣服類が、値引きされて売られたりしています。

学校における母の日イベント

シドニー周辺の学校では、5月の第2日曜日の前の週の金曜日に、「母の日のための朝食イベント」が開催され、日頃の母親に感謝して、朝食を学校で食べる機会がある学校もあるようです。これは、この日の朝は母親が朝食を作らなくてもすむことに加え、このような機会を通じて、先生との親の距離をより身近にさせ、親同士のコミュニケーションの強化を図っているようです。

その他の学校では、PTAが、各家庭から、いい香りのする石鹸、香水、エプロン、ふきんなど



母の日のための朝食イベントの様

の母親が喜びそうな物の寄付を集め、それらをラッピングなどの加工をして、母の日の前日に、学校内で、子どもたちが購入できるような値段をつけて販売し、この収益金を学校に寄付するそうです。

それ以外にも、母の日にプレゼントをするため、母の絵を描いたり、カードを作ったり、ペーパーフラワーを作ったりもしています。

母の日のチャリティーイベント

母の日に合わせて、NPO団体が大規模なイベントを開催したりします。「ウーマン・イン・スーパー」というNPO団体が、「マザーズ・デー・クラシック」というイベントを主催し、女性特有のがんの撲滅運動のためのチャリティーを行っています。このイベントは、約12万人の参加者が、シドニー市内をウォーキングやマラソンをしたりして、女性特有のがんの啓発・サポートのためのチャリティー活動をするようです。1998年の最初のイベントから現在までで、この活動を通じて、1,000万ドル（1ドル85円換算で、8億5千万円）を集め、女性特有のがんの啓発活動やサポートを行っている、ナショナル・ブレスト・キャンサー・ファンデーション（全豪乳がん基金）に寄付しています。

おわりに

国によって母の日は違うようですが、感謝の心は共通ではないかと思います。

ここ数年、「母の日」にも何もしていなかったことを思い出した私は、翌週に近所のショッピングセンターに行き、物価の高いシドニーにおいて、わが家の家計にとって大変買いやすい値段になっていた品物を購入し、1週間ほど遅くなりましたが実家に贈りました。来年は、きちんと「母の日」に何かしようかと、今から思っています。

今年の「母の日」に、特別に何もしなかった皆さん、来年の母の日は、常日頃の感謝をこめて、是非、何かしてみませんか!?